

# EPSON

# EMP NS Connection

(Windows版)

## 操作ガイド

# 説明書中の表示の意味

## 一般情報に関する表示

 注意	プロジェクターの故障や損傷の原因になるおそれがある内容を示しています。
 ポイント	関連する情報や知っておくと便利な情報を記載しています。
	関連事項や、より詳しい説明を記載しているページを示しています。
	マークの前のアンダーラインの引かれた用語は、用語解説で説明しています。「用語解説」をご覧ください。  p. 35
<b>操作</b>	操作方法や作業の順番を示しています。 番号順に操作して目的の作業を行ってください。
[(表記名)]	操作パネルまたはリモコンのボタン、プロジェクターの入出力端子を示しています。 例：[ESC]
「(メニュー名)」	画面に表示されているボタンやメニュー名を示しています。 例：「OK」
	次ページに説明が続くことを示しています。

## 「本機」または「プロジェクター」という表記について

本書の中に出てくる「本機」「プロジェクター」という表記には、プロジェクター本体のほかにも同梱品や別売品も含まれる場合があります。

# 目次

ネットワーク接続をする.....	4
接続までの流れ.....	4
コンピュータ側の接続設定.....	4
コンピュータとの接続.....	4
接続時の制限事項.....	9
ツールバーの使い方.....	11
各アイコンの名称と働き.....	11
Eズーム.....	13
基本設定.....	14
ネットワーク接続を切断する.....	16
コンピュータから切断する.....	16
プロジェクターから切断する.....	16
接続したいプロジェクターが表示されないときは.....	17
IPアドレスを指定して接続.....	17
グループを作成して接続.....	22
グループの作成.....	22
グループを使用して接続.....	26
グループのエクスポート.....	29
グループのインポート.....	30
データを暗号化して通信したいときは.....	32
用語解説.....	35
索引.....	36

# ネットワーク接続をする

## 接続までの流れ

次の手順で映像を投写します。

1. プロジェクター側で接続モードの設定をします。  
● プロジェクター同梱の『セットアップガイド』  
(簡単接続モード、アクセスポイントモード、有線 LAN 接続モード)
2. コンピュータ側で接続設定をします。● p.4
3. EMP NS Connection (接続ソフトウェア)で接続し、映像を投写します。  
● p.4

## コンピュータ側の接続設定

コンピュータの接続設定は、無線 LAN カードに添付のユーティリティソフトを使って行います。

Windows XP をお使いの場合は、ユーティリティソフトがなくても ESSID アドホックモードで通信できます。チャンネル指定アドホックモードで通信する場合は、ユーティリティソフトを使用します。

すでに設定済みの場合は、ここでの設定は必要ありません。

ユーティリティソフトの使用方法は、お使いの無線 LAN カードの『取扱説明書』をご覧ください。

プロジェクター側で「ESSID▶▶ 指定アドホック」に設定した場合は、コンピュータ側も ESSID 指定アドホックモードにします。

プロジェクター側で「チャンネル▶▶ 指定アドホック」に設定した場合は、コンピュータ側もチャンネル指定アドホックモードにします。ESSID やチャンネル番号はプロジェクターの接続待機画面に表示されているものと同じになるように設定します。

## コンピュータとの接続

接続設定が完了したら、コンピュータで EMP NS Connection を起動し、プロジェクターと接続します。一度接続設定を行えば、以降はこの接続操作から始められます。

接続する前に以下の準備をしてください。

設定方法はプロジェクター同梱の『セットアップガイド』を参照してください。

- プロジェクターの電源を入れておいてください。



- プロジェクターのカードスロットに LAN カードをセットしておいてください。
- 簡単接続モード、アクセスポイントモード、有線 LAN 接続モードのいずれかの設定をしておいてください。
- 使用するコンピュータには EMP NS Connection をインストールしておいてください。



ポイント

- EMP NS Connection を起動する前に、コンピュータに無線 LAN カードをセットしておいてください。EMP NS Connection 起動後に無線 LAN カードをセットすると、EMP NS Connection で無線 LAN カードが認識されません。
- コンピュータ側の無線 LAN カードや内蔵の無線 LAN 機能の設定で、WEP を OFF に設定しておいてください。
- EMP NS Connection の各画面に表示されている「(?)」をクリックすると、ヘルプが表示され、機能の説明を見ることができます。

## 操作

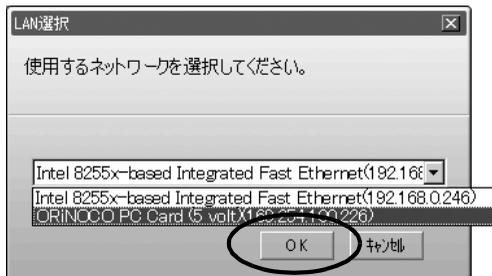
- 1 Windows で、「スタート」-「プログラム」-（または「すべてのプログラム」）-「EPSON Projector」-「EMP NS Connection」の順に選択します。  
EMP NS Connection が起動します。



ポイント

PowerPoint 起動中に EMP NS Connection を起動すると、起動時の画面に「PowerPoint を再起動しないと、スライドショーが実行できない場合があります。」と表示されます。このようなときは、PowerPoint をいったん終了し、EMP NS Connection 起動後にもう一度起動してください。

- 2 EMP NS Connection をインストール後、初めて起動した場合は、接続に使用する無線 LAN カードを選択し、「OK」ボタンをクリックします。





ポイント

- プロジェクター側のネットワーク設定で、IPアドレス<sup>▶▶</sup>を設定していない場合は、「ネットワークアダプターの情報取得に失敗しました…」とメッセージが表示されることがあります。これは DHCP<sup>▶▶</sup>サーバと接続できないときに、IPアドレスを決定するまでに時間がかかるためです。約 60 秒間たってから、再び手順 1 から操作をやり直してください。
- このLAN選択画面で、使用するネットワークアダプタを選択すると、以降 EMP NS Connection を起動してもこの画面は表示されません。使用するネットワークアダプタを変更したい場合は、接続プロジェクター選択画面(手順3の画面)で「拡張機能」ボタンをクリックします。表示された拡張機能画面で「LAN 切替」ボタンをクリックすると、LAN 選択画面が表示されます。

### 3 接続先のプロジェクター名をクリックしてチェックマークを付け、「接続」ボタンをクリックします。

プロジェクター名は、プロジェクターの接続待機画面に表示されています。



アイコンの色によって以下の  
ように状態が異なります。  
グレー : 未接続  
オレンジ: 他のコンピュータと  
接続中

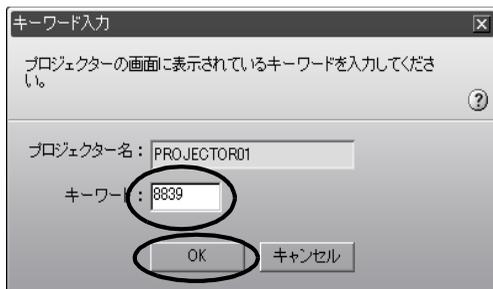


ポイント

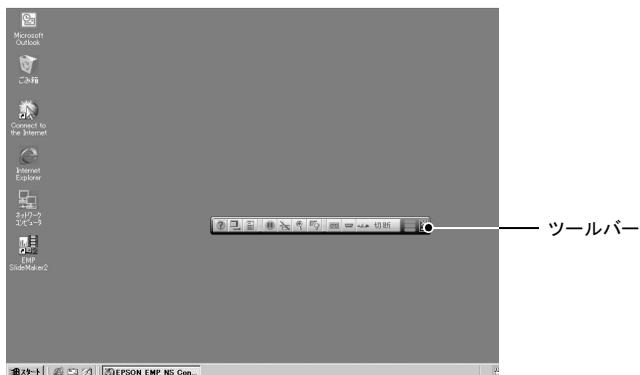
- 他のコンピュータと接続中のプロジェクターを選択した場合は、自動的に先に接続していたコンピュータを切断し、後から接続したコンピュータの映像を投写します。
- 複数のプロジェクターを選択すると、1台のコンピュータの映像を複数のプロジェクターで投写できます。1台のコンピュータの映像を同時に投写できるプロジェクターの台数は、最大 4 台までです。
- 接続後に、接続するプロジェクターを追加することはできません。



- 4 「プロジェクターキーワード」を「ON」に設定した場合は、プロジェクターの接続待機画面に表示されているプロジェクターキーワードを入力して「OK」ボタンをクリックします。



- 5 コンピュータとプロジェクターがネットワークを介して接続され、コンピュータの画面がプロジェクターから投写されます。



コンピュータの画面には、EMP NS Connection のツールバーが表示されます。このツールバーを使って、プロジェクターの操作や設定をしたり、ネットワーク接続を切断したりできます。●p.11

プレゼンテーションを行う際にツールバーが不都合になる場合は、ツールバーを最小化することができます。この場合は、リモコンでプロジェクターの操作や設定を行います。●プロジェクト同梱の『取扱説明書』

この後の投写映像の調整や各機能については、プロジェクト同梱の『取扱説明書』をご覧ください。





ポイント

- PowerPoint ファイルを投写している場合は、リモコンのページ[+] [▼] ボタンを押して前のスライドに戻す / 次のスライドに送ることができます。
- プレゼンターターの交代など、引き続き別のコンピュータから接続する場合は、接続したいコンピュータで EMP NS Connection を起動して接続してください。接続中のコンピュータとの接続が自動的に切断され、後から接続しようとしたコンピュータと接続します。

## 接続時の制限事項

Network Screen でコンピュータの映像を投写するときは、以下の制限事項があります。ご確認ください。

### 対応解像度

投写可能なコンピュータの画面解像度は、次のとおりです。次の解像度の場合は、コンピュータに表示されている映像をそのまま投写できます。UXGAを超える解像度のコンピュータとは接続できません。

- VGA(640 × 480)
- SVGA(800 × 600)
- XGA(1024 × 768)
- SXGA(1280 × 960)
- SXGA(1280 × 1024)
- SXGA+(1400 × 1050)
- UXGA(1600 × 1200)

コンピュータの解像度が XGA を超えると、以下のメッセージが表示されません。

パソコンの画面の領域が XGA(1024 × 768pixel) より大きい場合、画像転送のパフォーマンスが低下します。接続処理を続行しますか？

「はい」をクリックすると接続しますが、表示速度は遅くなります。

また、以下のメッセージが表示された場合は、コンピュータの解像度を SXGA 以下に設定してから接続してください。

SXGA を超える解像度をサポートしていないプロジェクターがあります。パソコンの解像度を下げて再接続してください。

1280 × 600 など、縦横比が特殊な画面のコンピュータの場合は、前述の対応解像度7種類のうちから横方向の画素数が一致する解像度で投写されます。このとき、縦方向の余白部分は黒く投写されます。



## 表示色

投写可能なコンピュータの画面の色数は、次のとおりです。

- 8 ビットカラー (256 色)
- 16 ビットカラー
- 24 ビットカラー
- 32 ビットカラー

ただし、24 ビット・32 ビットカラーに設定している場合は、以下のメッセージが表示されます。

パソコンの画面の色が24ビット以上の場合、画像転送のパフォーマンスが低下します。NS Connection はパフォーマンスの低下を軽減するために 16 ビットに変換して接続します。接続処理を続行しますか？

「はい」をクリックすると接続しますが、投写画面は 16 ビットカラーになります。

## 接続台数

1 台のコンピュータに、最大 4 台までのプロジェクターを接続して同時に映像を投写できます。

複数のコンピュータから 1 台のプロジェクターに同時に接続することはできません。

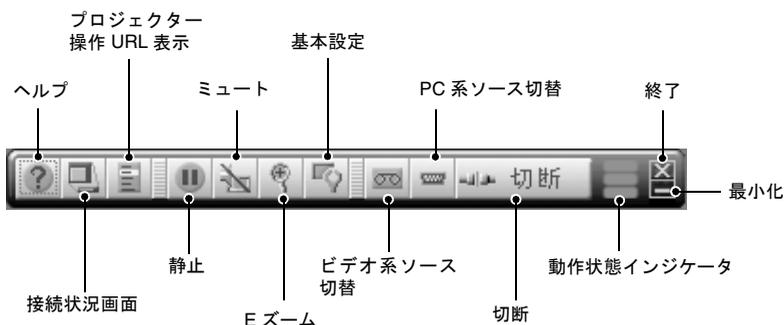
## その他

- 無線 LAN の通信速度が低速の場合、接続しても切断されやすい状態となり、予期しないときに切断されることがあります。
- 音声は伝送されません。
- 動画を再生する場合、コンピュータ上で再生した場合と比べて、スムーズに再生されません。
- DirectX の一部の機能を使っているアプリケーションは、正しく表示できない場合があります。
- MS-DOS プロンプトの全画面表示は投写できません。

# ツールバーの使い方

## 各アイコンの名称と働き

コンピュータとプロジェクターをネットワーク接続すると、次のツールバーがコンピュータの画面に表示されます。



各アイコンの働きは以下のとおりです。

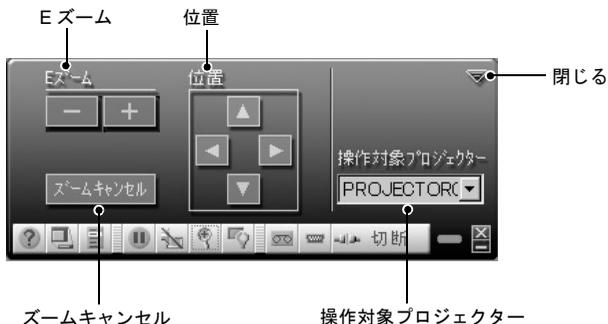
	ヘルプ	EMP NS Connection のヘルプを表示します。
	接続状況画面	クリックするたびに、接続状況画面の表示 / 非表示を切り替えます。接続状況画面を表示すると、現在接続しているプロジェクター名のアイコンが緑に表示されています。接続状況画面では、接続切り替えや追加して接続するなどの操作はできません。
	プロジェクト操作 URL 表示	EasyWeb が表示されます。 ● プロジェクター同梱の『活用ガイド』
	静止	映像を一時停止します。 動画の場合は、停止している間もコンピュータ側の映像は進んでいるため、停止したときの場面からは再開できません。
	ミュート	映像と音声を一時的に消します。 例えば、コンピュータの映像を投写中にファイルの切り替えを行うなど、見ている人に操作内容を表示したくない場合に使用すると便利です。ただし、動画の場合は消している間もコンピュータ側の映像は進んでいるため、消したときの場面からは再開できません。
	Eズーム	投写サイズを変えずに、見たい部分を拡大します。 設定画面を表示して、位置や倍率を設定できます。 ● p.13



	<b>基本設定</b>	設定画面を表示して、明るさ、台形補正、コントラスト、カラーモードを設定できます。● p.14
	<b>ビデオ系ソース切替</b>	アイコンをクリックするたびに、プロジェクターで投写する入力信号を切り替えます。複数台のプロジェクターに接続しているときは使用できません。
	<b>PC系ソース切替</b>	アイコンをクリックするたびに、プロジェクターで投写する入力信号を切り替えます。複数台のプロジェクターに接続しているときは使用できません。
	<b>切断</b>	現在通信中のプロジェクターとのネットワーク接続を切断します。
	<b>動作状態インジケータ</b>	コンピュータとプロジェクターがネットワーク接続しているときに、上、中、下の各インジケータが交互に点滅します。正しく接続できていないときは消灯しています。
	<b>終了</b>	現在通信中のプロジェクターとのネットワーク接続を切断し、EMP NS Connection を終了します。
	<b>最小化</b>	ツールバーが最小化され、Windows のタスクバーにボタンとして表示されます。

## Eズーム

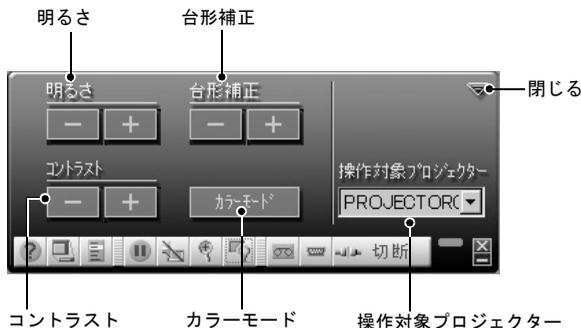
「Eズーム」アイコンをクリックすると、次の設定画面が表示され、ズーム倍率や位置などの調整ができます。



Eズーム	Eズームの倍率を調整します。 「+」ボタン: 拡大する 「-」ボタン: 拡大した結果を縮小する リモコンの[⊕][⊖]ボタンと同じ機能です。
位置	拡大/縮小表示する部分を指定します。 プロジェクター本体のEズーム機能で、ターゲットスコープを移動して拡大や縮小をする部分を指定する機能と同じです
ズームキャンセル	Eズームを解除して元の表示に戻ります。
操作対象プロジェクター	操作対象のプロジェクター名を表示しています。 複数のプロジェクターに接続している場合は、Eズームの操作をするプロジェクターを選択します。
閉じる	この画面を閉じます。

## 基本設定

「基本設定」アイコンをクリックすると、次の設定画面が表示され、明るさ、台形補正、コントラスト、カラーモードの調整ができます。



明るさ	投写映像の明るさを調整します。 「+」ボタン:明るくなる 「-」ボタン:暗くなる
台形補正	「+」ボタン:上辺が狭くなる 「-」ボタン:底辺が狭くなる
コントラスト	画面の明暗の差を調整します。 「+」ボタン:明暗の差が大きくなる 「-」ボタン:明暗の差が小さくなる
カラーモード	映像の特徴に合わせた5種類の設定があらかじめ記録されています。投写映像に応じて選択するだけで、簡単に最適な画質で投写できます。モードによって投写の明るさが異なります。「カラーモード」ボタンをクリックするたびに、設定が切り替わります。
操作対象プロジェクター	操作対象のプロジェクター名を表示しています。複数のプロジェクターに接続している場合は、基本設定を行うプロジェクターを選択します。
閉じる	この画面を閉じます。



- 台形補正をすると画面が小さくなります。
- 台形補正でムラが目立つ場合は、シャープネスを下げてください。
  - プロジェクター同梱の『取扱説明書』
- 台形補正を行っているときに、画面に表示されるゲージの値が変化しなくなったら、台形補正量の限界に達したことを示しています。プロジェクターを制限以上に傾けて設置していないか確認してください。
  - プロジェクター同梱の『取扱説明書』

# ネットワーク接続を切断する

コンピュータとプロジェクターのネットワークを介した接続を切断するには、コンピュータから切断する方法と、プロジェクターで切断する方法の2つがあります。



ポイント

投写しているコンピュータの映像は、本プロジェクターには保存されません。下記のいずれかの操作で切断を行うと、内部の映像データはすべて破棄されます。

## コンピュータから切断する

ツールバーで、「切断」または「終了」のアイコンをクリックします。



「切断」アイコンをクリックすると、ネットワーク接続の切断のみを行います。

「終了」アイコンをクリックすると、ネットワーク接続を切断して EMP NS Connection を終了します。



ポイント

複数台のプロジェクターと接続しているコンピュータで切断の操作をすると、すべてのプロジェクターとの接続が切断されます。

## プロジェクターから切断する

### 操作

- 1 リモコンの[ESC]または[戻る]ボタンを押します。  
終了メニューが表示されます。
- 2 「終了する」ボタンを選択して、リモコンの[Enter]または[決定]ボタンを押します。  
切断するコンピュータの画面に「接続中のプロジェクターはプロジェクター側から切断されました。」と表示されます。

# 接続したいプロジェクターが表示されないときは

接続したいプロジェクターが EMP NS Connection のプロジェクター選択画面に表示されない場合は、次の点を確認してください。

- 無線 LAN 接続の場合、電波が届かない、あるいは弱くありませんか？
- 接続モードを正しく設定していますか？
- サブネットが異なっていませんか？

簡単接続モードの場合は、次の点も確認してください。

- コンピュータとプロジェクターで同一の **ESSID**▶▶ を設定していますか？
- コンピュータとプロジェクターで同一の **チャンネル**▶▶ 番号を設定していますか？

サブネットが異なるネットワーク上のプロジェクターに接続する場合は、「IP 指定接続モード」を使うと接続できます。IP 指定接続モードは、接続したいプロジェクターの **IP アドレス**▶▶ を指定して接続する方法です。

## IP アドレスを指定して接続

次の手順で、IP 指定接続モードの接続をします。



- プロジェクターの IP アドレスと、コンピュータの IP アドレスが異なるサブネットに所属していた場合、EMP NS Connection のプロジェクター選択画面にプロジェクター名が表示されません。
- EMP NS Connection の各画面に表示されている「(?)」をクリックすると、ヘルプが表示され、機能の説明を見ることができます。



- EasyMP 動作中（画面が切り替わったり、無線 LAN カードのアクセラランプが緑色に点灯中など）は、電源ケーブルを抜かないでください。
- 無線 LAN カードのアクセラランプが緑色に点灯しているときや、ネットワーク接続中は、無線 LAN カードを取り出さないでください。無線 LAN カードが壊れることがあります。
- 有線 LAN カードのアクセラランプについてはご使用の有線 LAN カードの『取扱説明書』をご覧ください。

## 操作

- 1** アクセスポイントモードまたは有線 LAN 接続モードで、プロジェクターとコンピュータの接続設定をします。
- 2** コンピュータで、「スタート」-「プログラム」(または「すべてのプログラム」)-「EPSON Projector」-「EMP NS Connection」の順に選択します。EMP NS Connection が起動します。





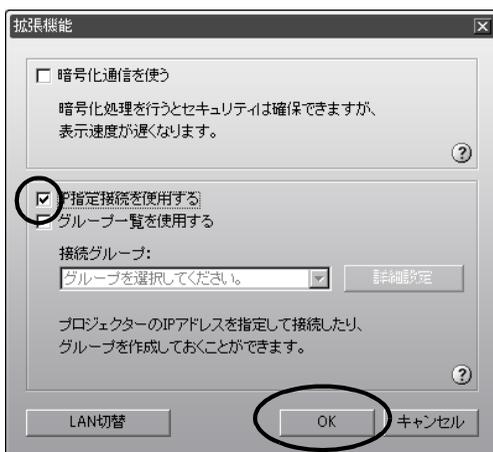
ポイント

PowerPoint 起動中に EMP NS Connection を起動すると、起動時の画面に「PowerPoint を再起動しないと、スライドショーが実行できない場合があります。」と表示されます。このようなときは、PowerPoint をいったん終了し、EMP NS Connection 起動後にもう一度起動してください。

### 3 次の画面で、「拡張機能」ボタンをクリックします。



### 4 拡張機能画面が表示されます。「IP 指定接続を使用する」をクリックしてチェックマークを付け、「OK」ボタンをクリックします。



- 5 以下の画面が表示されます。画面の右上に表示されている「IP 指定接続」をクリックします。



- 6 「IP アドレス」に接続したいプロジェクターの IP アドレスを入力し、「検索」ボタンをクリックします。



## 7 IPアドレスが「登録プロジェクター」に追加され、検索中であることを示すアイコンが表示されます。プロジェクターが見つかった、「登録プロジェクター」にプロジェクター名が表示されます。さらにプロジェクターを検索したい場合は、手順6を繰り返します。

検索したプロジェクターは、「登録プロジェクター」に追加されていきます。



アイコンの色と形によって以下のよう  
に状態が異なります。

-  (グレー): 未接続
-  (オレンジ): 他のコンピュータと接続中
-  : 現在検索中
-  : 検索したが見つからなかったもの



ポイント

- 最大 16 台までプロジェクターを追加できます。17 台以上追加すると、最初に追加したものから削除されます。接続できるプロジェクターの台数は最大 4 台までです。
- EMP NS Connection を終了して次回起動したときは、「登録プロジェクター」に追加したプロジェクターは消去されています。次回以降も同じプロジェクターを表示したい場合は、グループを作成して目的のプロジェクターを登録してください。☛ p.22



- 8 接続先のプロジェクター名をクリックしてチェックマークを付け、「接続」ボタンをクリックします。



ポイント

- 他のコンピュータと接続中のプロジェクターを選択した場合は、先に接続していたコンピュータを切断し、後から接続したコンピュータの映像を投写します。
- 複数のプロジェクターを選択すると、1台のコンピュータの映像を複数のプロジェクターで投写できます。1台のコンピュータの映像を同時に投写できるプロジェクターの台数は、最大4台までです。
- 接続後に、接続するプロジェクターを追加することはできません。

コンピュータとプロジェクターがネットワークを介して接続され、コンピュータの画面がプロジェクターから投写されます。

## グループを作成して接続

EMP NS Connection では最大 16 台までのプロジェクターを 1 つのグループに登録できます。頻繁にネットワーク経由で接続するプロジェクターをグループに登録しておき、接続時にグループを使用すれば、登録されているプロジェクターを簡単に呼び出してすぐに接続することができます。

例えば、全支店にそれぞれネットワーク接続したプロジェクターがある環境で、特定のエリアにある支店のプロジェクターに投写したい場合は、エリア内の支店のプロジェクターを 1 つのグループに登録しておきます。一度グループに登録すれば、接続時にグループを指定するだけで目的の支店のプロジェクターと接続できるため、接続のたびにプロジェクターを 1 つずつ検索する手間を省けます。

グループ情報はファイルへの書き出し(エクスポート)と読み込み(インポート)ができます。ネットワーク管理者が作成しエクスポートしたグループから、必要に応じて接続したいグループをインポートすれば、簡単に目的のプロジェクターと接続できます。



ポイント

EMP NS Connection の各画面に表示されている「」をクリックすると、ヘルプが表示され、機能の説明を見ることができます。

### グループの作成

次の手順でグループを作成します。

#### 操作

- 1 「IP アドレスを指定して接続」の手順 1～3 を実行します。● p.17



- 2 拡張機能画面が表示されます。「IP 指定接続を使用する」と「グループ一覧を使用する」をクリックしてチェックマークを付け、「詳細設定」ボタンをクリックします。



- 3 グループ詳細設定画面が表示されます。グループを新規作成する場合は「新規追加」をクリックします。「接続グループ」に「New Group」と表示され、「IP アドレス」と登録プロジェクターの一覧が消去されます。





ポイント

- 既存のグループに登録されているプロジェクターを変更する場合は、「接続グループ」でグループ名を選択し、手順5に進みます。
- グループ作成中または編集時に「新規追加」ボタンをクリックすると、「編集中のグループが登録されていません。登録しますか?」というメッセージが表示されます。「はい」をクリックすると作業中のグループが保存されます。「いいえ」をクリックすると作業中のグループは保存されずに破棄されます。

#### 4 「接続グループ」にグループ名を入力します。

#### 5 「IP アドレス」に登録したいプロジェクターの IP アドレスを入力し、「追加>」ボタンをクリックします。

アドレスの各フィールドには0～255の数字を入力できます。



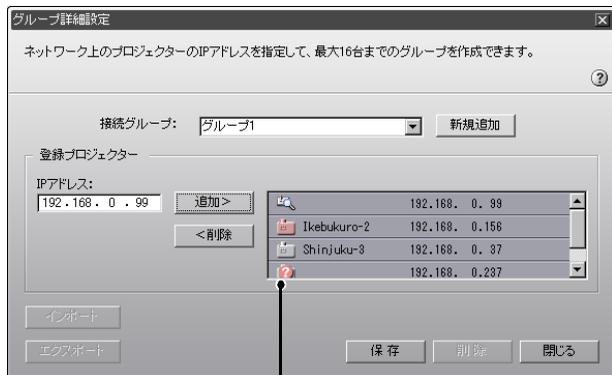
ポイント

「0.0.0.0」と「255.255.255.255」は使用できません。



- 6** IPアドレスが登録プロジェクター一覧に追加され、検索中であることを示すアイコンが表示されます。プロジェクターが見つかると、一覧にプロジェクター名が表示されます。さらにプロジェクターを登録したい場合は、手順5を繰り返します。

登録したプロジェクターは、一覧に追加されていきます。



アイコンの色と形によって以下のように状態が異なります。

-  (グレー): 未接続
-  (オレンジ): 他のコンピュータと接続中
-  : 現在検索中
-  : 検索したが見つからなかったもの



ポイント

- 最大16台までプロジェクターを追加できます。接続できるプロジェクターの台数は最大4台までです。
- 追加したプロジェクターを一覧から削除したい場合は、削除したいプロジェクターを選択して「<削除」ボタンをクリックします。

- 7** 登録したいプロジェクターをすべて一覧に追加したら、「保存」ボタンをクリックします。「グループを保存します。よろしいですか？」というメッセージが表示されるので、「はい」ボタンをクリックします。

グループが保存されます。

メッセージ画面で「いいえ」ボタンをクリックすると、グループは保存されません。



**ポイント**

既存のグループを編集して保存する場合や、保存するグループと同じ名前のグループがすでに「接続グループ」にあった場合は、「同一名称のグループが登録されています。上書きしますか？」というメッセージが表示されます。「はい」ボタンをクリックするとグループを上書き保存します。別名で保存したい場合は、「いいえ」ボタンをクリックして、グループ詳細設定画面の「接続グループ」でグループ名を入力して「保存」ボタンをクリックしてください。

- 8** 「閉じる」ボタンをクリックします。

グループ詳細設定画面を閉じ、拡張機能画面に戻ります。



**ポイント**

グループを削除したい場合は、グループ設定画面の「接続グループ」で削除したいグループを選択し、「削除」ボタンをクリックします。

## グループを使用して接続

次の手順で、グループに登録したプロジェクターに接続します。

「グループの作成」でグループを作成し、引き続きこの手順を実行する場合は、手順3から始めてください。

### 操作

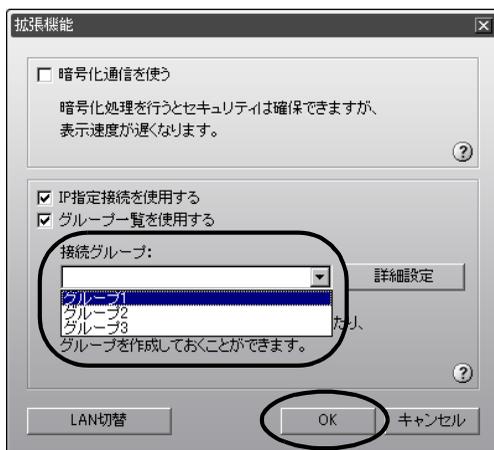
- 1** 「IPアドレスを指定して接続」の手順1～3を実行します。● p.17



- 2 拡張機能画面が表示されます。「IP 指定接続を使用する」と「グループ一覧を使用する」をクリックしてチェックマークを付けます。



- 3 「接続グループ」で接続したいグループを選択し、「OK」ボタンをクリックします。



- 4 以下の画面が表示された場合は、画面の右上に表示されている「IP 指定接続」をクリックします。画面の左上に「IP 指定接続モード」と表示されている場合は、何もせずに手順5に進みます。



- 5 「登録プロジェクター」に、グループに登録されているプロジェクターが表示されます。接続先のプロジェクター名をクリックしてチェックマークを付け、「接続」ボタンをクリックします。  
プロジェクター名は、プロジェクターの接続待機画面に表示されています。



アイコンの色と形によって以下のように状態が異なります。

-  (グレー) : 未接続
-  (オレンジ) : 他のコンピュータと接続中
-  : 現在検索中
-  : 検索したが見つからなかったもの





ポイント

- 他のコンピュータと接続中のプロジェクターを選択した場合は、先に接続していたコンピュータを自動的に切断し、後から接続したコンピュータの映像を投写します。
- 複数のプロジェクターを選択すると、1台のコンピュータの映像を複数のプロジェクターで投写できます。1台のコンピュータの映像を同時に投写できるプロジェクターの台数は、最大4台までです。
- 接続後に、接続するプロジェクターを追加することはできません。

コンピュータとプロジェクターがネットワークを介して接続され、コンピュータの画面がプロジェクターから投写されます。

## グループのエクスポート

次の手順でグループをエクスポートします。



ポイント

- 「接続グループ」のリストにあるすべてのグループをエクスポートします。特定のグループのみをエクスポートすることはできません。
- グループをエクスポートする前に、最低1つはグループを作成して保存しておいてください。● p.22
- グループ作成中または編集中は、エクスポートできません。

## 操作

1 「グループの作成」の手順 1、2 を実行します。● p.22

2 「エクスポート」ボタンをクリックします。



- 3** 表示された画面で、エクスポート先のフォルダを選択してファイル名を指定し、「保存」ボタンをクリックします。  
指定したファイル名でグループがエクスポートされます。



ポイント

- 指定できるファイルの拡張子は「.ini」のみです。
- 選択したフォルダに指定したファイル名と同じ名前のファイルがある場合は、「指定されたファイルがすでに存在します。上書きしますか？」というメッセージが表示されます。「はい」ボタンをクリックするとファイルを上書き保存します。別名で保存したい場合は、「いいえ」ボタンをクリックして、手順3の画面でファイル名を指定して「保存」ボタンをクリックしてください。

## グループのインポート

次の手順でグループをインポートします。

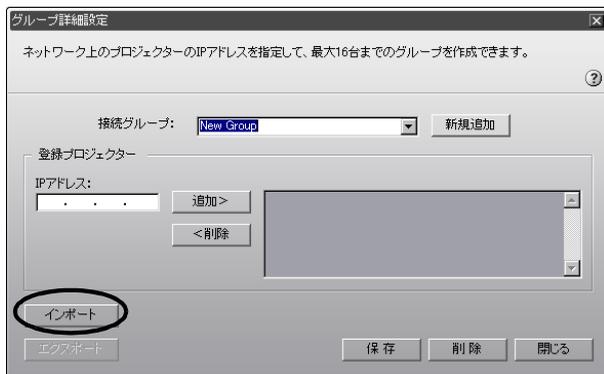


ポイント

グループ作成中または編集時は、インポートできません。

## 操作

- 1 「グループの作成」の手順 1、2 を実行します。● p.22
- 2 グループ詳細設定画面が表示されます。「インポート」ボタンをクリックします。



### 3 表示された画面で、インポートするファイルを選択し、「開く」ボタンをクリックします。

グループがインポートされ、「接続グループ」のリストにインポートしたグループ名が追加されます。



ポイント

- 指定できるファイルの拡張子は「.ini」のみです。
- インポートするグループと同じ名前のグループがすでに「接続グループ」のリストにあった場合、「同一名称のグループが登録されています。上書きしますか?」というメッセージが表示されます。「はい」ボタンをクリックすると「接続グループ」のリストにあったグループをインポートしたグループに上書きします。「いいえ」ボタンをクリックすると、グループはインポートされません。

インポートしたグループに登録されたプロジェクターに接続したい場合は、「グループを使用して接続」の手順3～5を実行してください。● p.27

# データを暗号化して通信したいときは

ネットワークを介して接続したコンピュータの映像をプロジェクターで投写する際に、その映像のデータを暗号化して通信することができます。データを暗号化すると、セキュリティが確保されます。ただし、通信速度は遅くなります。

以下の手順で、暗号化通信の設定をします。



注意

- EasyMP 動作中(画面が切り替わったり、無線 LAN カードのアクセランプが緑色に点灯中など)は、電源ケーブルを抜かないでください。
- 無線 LAN カードのアクセランプが緑色に点灯しているときや、ネットワーク接続中は、無線 LAN カードを取り出さないでください。無線 LAN カードが壊れることがあります。
- 有線 LAN カードのアクセランプについては、ご使用の有線 LAN カードの『取扱説明書』をご覧ください。

## 操作

- 1 アクセスポイントモードで、プロジェクターとコンピュータの接続設定をします。
- 2 コンピュータで、「スタート」-「プログラム」(または「すべてのプログラム」)-「EPSON Projector」-「EMP NS Connection」の順に選択します。EMP NS Connection が起動します。



注意

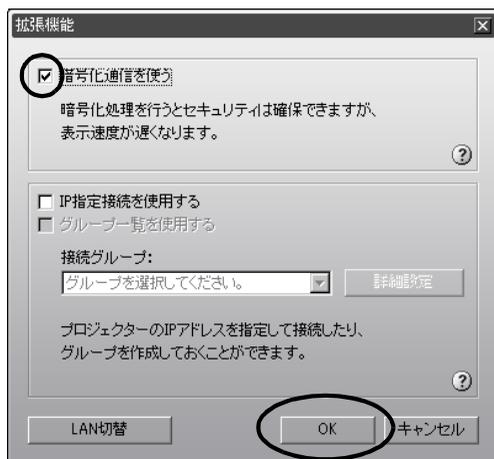
PowerPoint 起動中に EMP NS Connection を起動すると、起動時の画面に「PowerPoint を再起動しないと、スライドショーが実行できない場合があります。」と表示されます。このようなときは、PowerPoint をいったん終了し、EMP NS Connection 起動後にもう一度起動してください。



**3** 次の画面で、「拡張機能」ボタンをクリックします。



**4** 拡張機能画面が表示されます。「暗号化通信を使う」をクリックしてチェックマークを付け、「OK」ボタンをクリックします。



- 5 接続先のプロジェクター名をクリックしてチェックマークを付け、「接続」ボタンをクリックします。



コンピュータとプロジェクターがネットワークを介して接続され、コンピュータの画面がプロジェクターから投写されます。このとき、コンピュータとプロジェクターの間でデータを暗号化して通信しています。

# 用語解説

本書で使用している用語で、本文中に説明がなかったもの、あるいは難しいものを簡単に説明します。詳細については市販の書籍などを利用してください。

DHCP	Dynamic Host Configuration Protocol の略で、ネットワークに接続する機器に、IP アドレスを自動的に割り当てるプロトコルのことです。
ESSID	ESS とは Extended Service Set (拡張サービスセット) の略です。ESSID は、無線 LAN の環境で相手と接続するための識別データです。ESSID が一致している機器どうしで無線通信できます。
IP アドレス	ネットワークに接続されたコンピュータを認識するための数字のことです。
WEP	Wired Equivalent Privacy の略で、通信中のデータを暗号化するセキュリティ方法です。 WEP で暗号キーを登録しておくと同じ暗号キーが登録されている機器どうしでないでデータの通信が行なえなくなります。
アドホックモード	無線 LAN の接続方式の 1 つで、アクセスポイントを介さずに無線 LAN クライアント同士で通信する方式です。
チャンネル	同じ周波数を使用して無線通信する機器が多いと、通信速度が低下します。その場合、無線 LAN ネットワークごとに無線チャンネルを設定することで、他の無線 LAN の干渉を避けることができます。

# 索引

## アルファベット

---

EMP NS Connection.....	4
ESSID 指定アドホック .....	4
E ズーム .....	11,13
IP 指定接続モード.....	17
PC 系ソース切替.....	12

## アイウエオ

---

明るさ .....	14
暗号化 .....	32
カラーモード .....	14
基本設定 .....	12,14
グループ .....	22
コントラスト .....	14
静止 .....	11
接続状況画面 .....	11
接続台数 .....	10
切断 .....	16
対応解像度 .....	9
台形補正 .....	14
チャンネル指定アドホック .....	4
ツールバーの使い方 .....	11
ビデオ系ソース切替 .....	12
表示色 .....	10
プロジェクター操作 URL 表示 .....	11
ミュート .....	11

## ご注意

- (1) 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。
- (2) 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容については万全を期して作成いたしました。が、万一ご不審な点や誤り、お気付きの点がございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。
- (4) 運用した結果の影響につきましては、(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。
- (5) 本製品がお客様により不適當に使用されたり、本書の内容に従わずに取り扱われたり、またはエプソンおよびエプソン指定の者以外の第三者により、修理、変更されたこと等に起因して生じた損害等につきましては、責任を負いかねますのでご了承ください。
- (6) エプソン純正品、およびエプソン品質認定品以外のオプション品または消耗品を装着してトラブルが発生した場合には、責任を負いかねますのでご了承ください。
- (7) 本書中のイラストと本体の形状は異なる場合があります。

## 本製品を日本国外へ持ち出す場合の注意

電源ケーブルは販売国の電源仕様にに基づき同梱されています。本機を販売国以外で使用するには、事前に使用する国の電源電圧や、コンセントの形状を確認し、その国に合った純正電源ケーブルを現地にてお買い求めください。

## 電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

## 瞬低(瞬時電圧低下)基準について

本装置は、落雷などによる電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置などを使用されることをお勧めします。

## 電源高調波について

この装置は、高調波抑制対策ガイドラインに適合しております。

## 商標について

IBM、DOS/V は、International Business Machines Corp. の商標または登録商標です。  
Macintosh、Mac、iMac は、Apple Computer, Inc. の登録商標です。  
Windows、WindowsNT は米国マイクロソフト社の商標です。  
ドルビーはドルビーラボラトリーズの商標です。  
EPSON はセイコーエプソン株式会社の登録商標です。  
Portions of this software are based in part on the work of the Independent JPEG Group.  
The freely available TIFF library written by Sam Leffler, Copyright © 1988-1997 Sam Leffler and Copyright © 1991-1997 Silicon Graphics, Inc., is used for loading, drawing and writing the TIFF file.

なお、各社の商標および製品商標に対しては特に注記のない場合でも、これを十分尊重いたします。

本製品は、オープンソースソフトウェアを利用しております。